2025 年 11 月 29 日（快晴）

『伐採体験×工場見学×三峯神社』ツアーに行ってきました！

ウッディーコイケさんの貯木場にて記念撮影

朝７時に集合して向かった先は…

「おはようございます。」「今日はよろしくお願いします！」
今年は例年に比べるとだいぶ暖かくて、まだダウンジャケットや厚手のコート類を出していなかったという声も聞かれました。
これから行く秩父の山中はかなり寒いということで、万全の寒さ対策をして出発です。

途中立ち寄った道の駅では散り紅葉も

渋滞を覚悟していた高速道路が思いのほか空いていて、ほぼ予定通りに最初の目的地である『道の駅 大滝』に到着することができました。
ここで今日一日ガイドをしていただくウッディーコイケさんのスタッフと合流し、お手洗い休憩や買い物の時間を取ってから奥秩父三峯山を目指します。

作業開始の前に小池副社長からご挨拶

創業明治 44 年、100 年以上続く老舗企業であるウッディーコイケさんは育林・伐採・製材のプロフェッショナル集団。
９年前には 20～30 代の若手を含めた 20 名ほどで“山林部”を立ち上げ、現在は三峯神社の御神木をはじめとした境内の木の管理も一手に引き受けているほか、東京にも伐採現場を持っているとのことでした。

静寂をやぶるチェーンソーの轟音と歓声

山林での伐木作業には危険が伴うため、離れたところからの見学になります。
遠くからでも手際良く作業が進められているのが伝わり、「メリメリ」と裂けるような音が聞こえたと思ったら、あっという間に「ズシーン」という爆音や振動と共に大木が地面に横たわりました。

飛び散る木屑と切断音は迫力満点

切り倒したその場で『プロセッサー』というチェーンソーや計測機能を備えた重機によってすぐに枝葉が落とされ、みるみるうちに 3〜4 メートル幅に切断されていく大きな丸太。
こちらの工程は“枝払い”“玉切り”と呼ばれ、特別な教育を受け技能資格を取得したスタッフのみがこの作業に従事できるそうです。

一見無造作に置いてあるような枝葉にも役割が

成長によって混み合った森林に多くの光を取り込むためには間引く必要があり、適切に間伐した後は木々の間から程よく日光が差し込むようになります。
その際に落とした葉は土に還り、杉のような針葉樹は水を蓄えているため土砂崩れの防止にもなることから根は残しておくのだそうです。

山と積まれた木材を前にお勉強の時間

杉やヒノキといった住宅用の木が植えてあるこの山林には、栄養過多で太ってしまった木や鹿などの食害に遭った木もあるため、例え 100 本の木を切ったとしても住宅用の材料になる木が 1 本だけということもあるのだとか。
興味深かったのは、地元のカエデでメープルシロップを製造しているというお話…食べてみたい！

昼食は三峯神社境内にある宿坊『興雲閣』へ

伐採体験を終え、三峯神社の送迎バスに揺られて参道を走ること数分で本日の昼食会場に到着。こちらの宿坊は、三峯神社への参拝客だけでなく観光客も利用できるようになっているそうです。食堂のほか、売店や“三峰神の湯”として知られる温泉（2025 年時点で日帰り入浴は中止中）もありました。

冷えた体に染みる心づくしの会席料理

覚悟はしていたものの、さすが標高 1,100m に位置するだけあって寒さの質が違いました…
嬉しいことに、用意されていたのは温かい鍋料理をはじめ焼き魚や煮物・和え物と品数豊富で
地元秩父の食材を生かした絶品料理ばかり。
しっかり歩いてお腹ペコペコ…おかわり OK のごはんも大人気だったのは言うまでもありません！

1 日約 800 本もの原木が運ばれてくる『貯木場』

山を下りてまず向かったのは市内にあるウッディーコイケさんの貯木場。
伐採された原木はまずここに運ばれ、選別機で仕分けされた後製材工場へと運搬されていきます。
一口に選別と言っても、工場で使用する樹種や長さ、径級ごとに細かく分けていくのだそうです。

いよいよ製材・プレカット工場見学へ

再びバスに戻り、車を走らせること５分ほどでウッディーコイケさんの本社に到着。
ここでは温かいお茶と写真付きの見やすい資料、そして安全のためのヘルメットが配布されました。
通常通り稼働している工場内を見学させていただける貴重な機会、期待が膨らみます。

声を張るスタッフと熱心に耳を傾ける皆さん

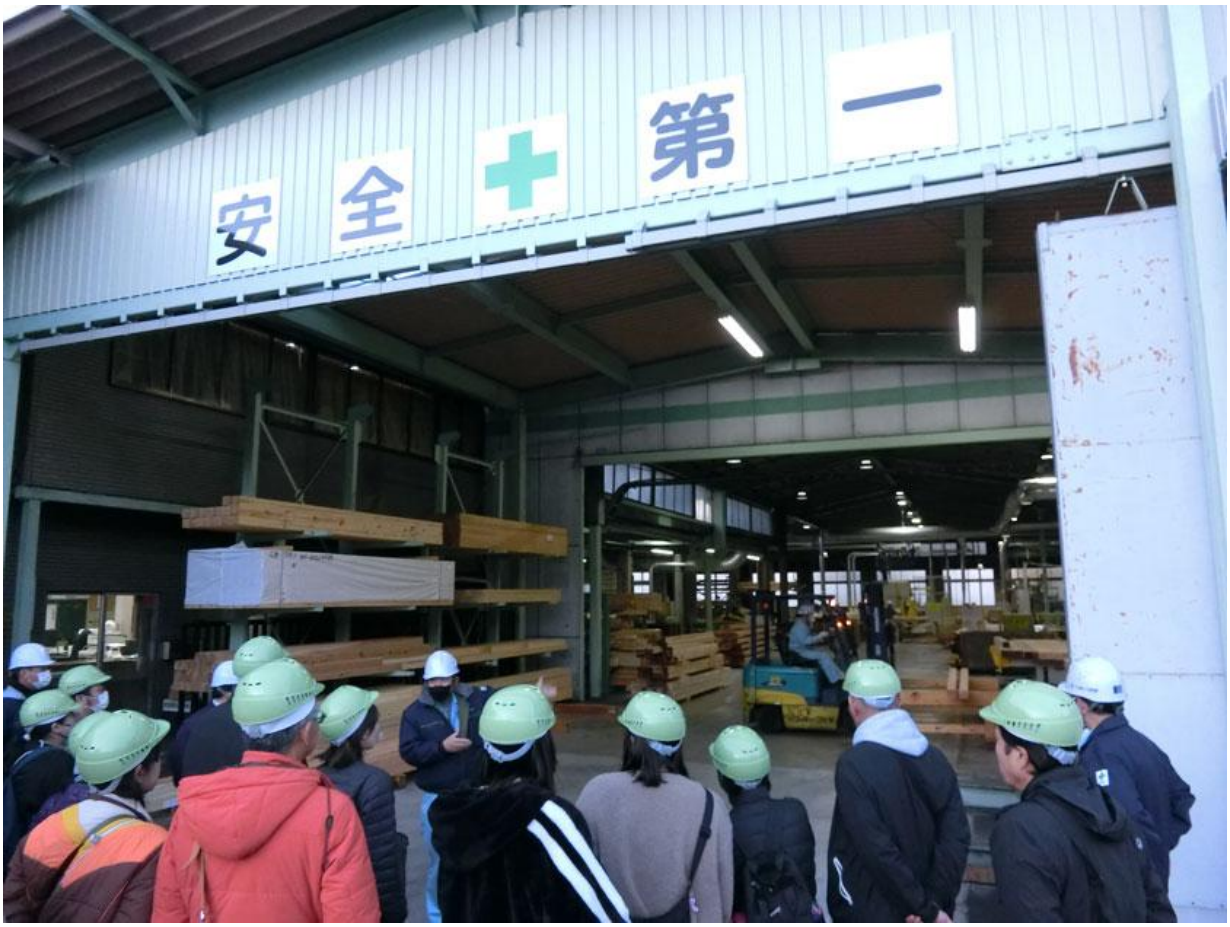
工場の稼働音に負けじと大きな声で説明をしてくださるウッディーコイケの丹野さん。
後ろに見えているのは『リングバーカー』といって、回転刃により原木の樹皮を剥ぎ取る機械。
原木は皮を剥いで不要な部分を取り除いた状態で製材するため、大切な工程となります。

工場内でひときわ目を引く『高速ツインバンドソー』

こちらは、ツイン（＝対の）バンドソー（＝帯状の鋸）という名前の通り左右両側に鋸がついていて、中央の送材車が木材を送ると双方から同時に製材を行うことができるという高性能な機械。オペレーターが遠隔操作を行うセンターの内部も窓越しに見学させていただきました！

木材の乾燥は重要な工程の一つ

山から伐採してきた丸太は内部にたくさんの水分を溜め込んでいるので、家の材料として使用するためにはしっかりと乾燥させる必要があります。
ウッディーコイケさんでは杉で 14 日、ヒノキで 10 日間かけて高温乾燥させ含水率を 15%まで落とすことで、建物が完成した後も変形したり収縮したりする心配のない建築材を生産しています。



ツアーの最後はプレカット工場へ

製材・乾燥を経て含水率や強度を測るなどし、ここで住宅を建てられる状態まで加工していきます。
30 坪ほどの家の材料であればだいたい 3 時間ほどで完成してしまうというから驚きです！
あらかじめ加工しておけば現場で端材を出さずに済むため環境にも優しく、工期やコストも大幅に削減できるといいます。

日本独自の伝統技術である“木組み”はもはや芸術の域

写真のように木と木を直列に繋ぐ「継手（つぎて)」や、垂直方向に繋ぐ「仕口（しぐち)」など。古来より、日本では複雑な加工を施すことで千年以上現存する奈良県の法隆寺のように強固な建築物を生み出してきました。
今でも在来工法（木造軸組工法）と呼ばれ、ウッディーコイケさんではこれに対応したプレカット加工も行っています。

工場見学の最後に思いがけないお土産が待っていました！

見てください、この嬉しそうな顔…
それもそのはず、出口付近に山と積まれた程良い大きさの製材（の端材）を「どうぞお持ち帰りください。」というではありませんか～
旅の記念？加工用？それとも薪ストーブの燃料？？皆さん真剣な表情でじっくり選んでいました。

＜グッドリビングについて聞きました＞

「会社があるのは前から知っていて、たまたま建築中の物件に置いてあったパンフレットを
もらってきたんですよ。
最初から、家を建てるなら無垢が良いと思っていました。
けっこう色々なところへ見に行ったけれど、ほかは集成材を使っている家が多かったんですよね。」
「グッドリビングさんは建物の中に入った時の感じが良かったのと…話がうまくて話術にひっか
かっちゃった！笑
それは冗談で、スタッフの皆さんがあったかいんですよ。」

（流山市 T 様）

「グッドリビングさんのことは広告などでも見かけていましたし、もともと知っていました。
実はほかのハウスメーカーの家は全く見ていないんです。」
「モデルハウスを訪問した時の木の匂いも“いいな”って。
そこにあった冊子の施工例と同じ家を建てたいと考えていたら、その時対応してくれた塚本さんが
物件の担当者として載っていたので“ちょうどこの家建てたいんです！”って言いました。笑」
「熟練の経験から、扉の開く向きや光の入り方といった細かいところまで調整や変更をしていただ
きました。」

（野田市 T 様）

「家を建てるなら地元である野田市の、地域に密着した会社が良いと考えていたんです。
グッドリビングさんの家は接着剤のせいで目やのどが痛くなるということがありませんでした。」
「設計士の佐野先生には“どのように暮らしたいですか？”と聞かれ、時に両家の両親も交えた
打ち合わせは 3 時間に及ぶこともざらでした。
そのおかげで、生産者がわかるため安心で、完全個室が一つもない“楽しく暮らしたい！”という
望みが叶う家を建てていただくことができました。」

（野田市 M 様）

＜フォトギャラリー＞

少し早めの集合時間…明かりのついた赤い看板が目印

参加者に用意されたバス旅のお供たち

「お久しぶりです！」ウッディーコイケ副社長の小池さんと中村代表

熊除けの鈴はどうか使わずに済みますように！！

わかりやすく説明してくださったウッディーコイケ木材事業部の千島さん

決定的瞬間を動画に残す方、自分の目に焼き付ける方…

軽々と丸太を運ぶ重機とそれを扱う職人技に釘付け

これぞ「山林伐採ツアーに来た！」という一枚♪

カメラを向けた先は…こだわりのナンバープレートに注目
（ほかの車もこのナンバーでした！）

毎回親子三世代で参加されている仲良しご家族♪

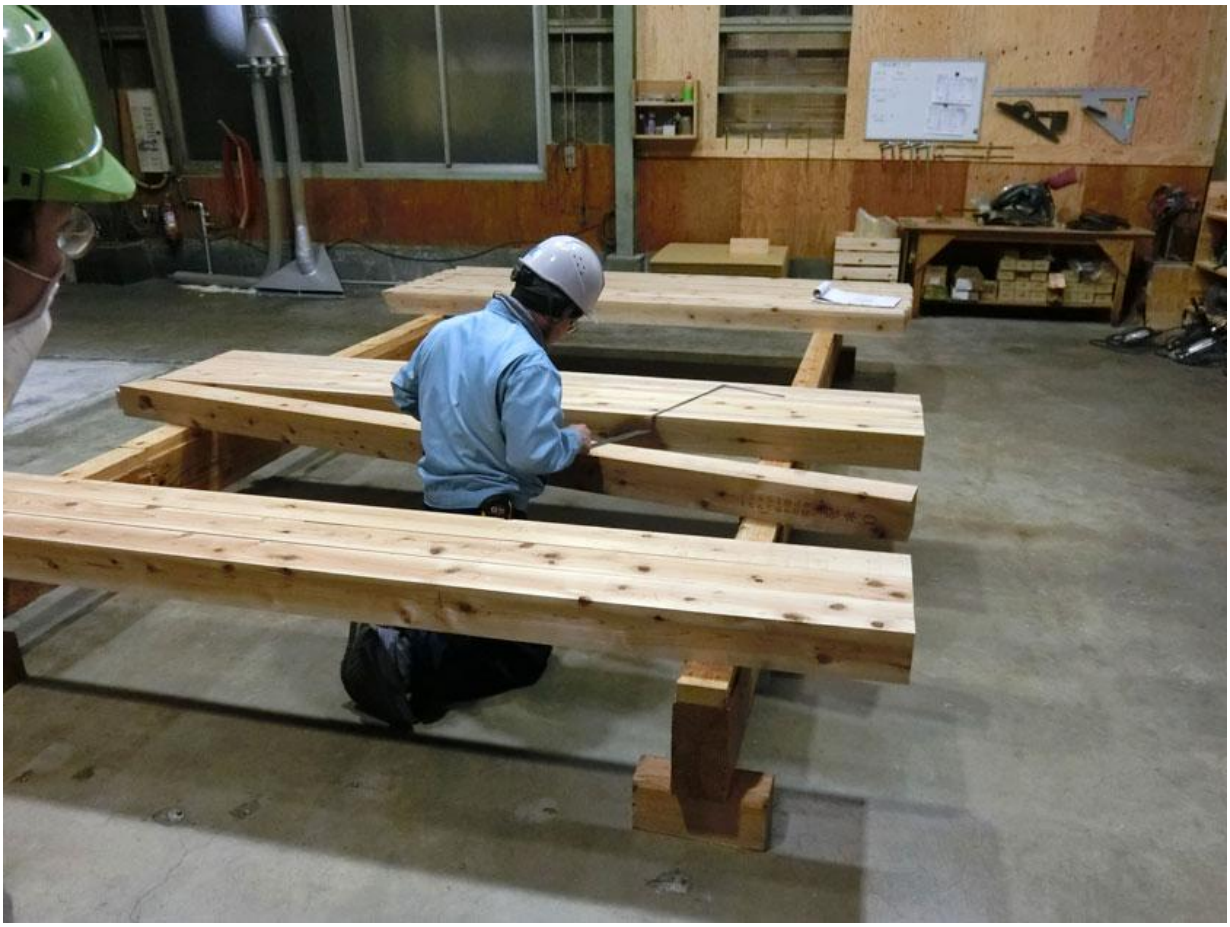
窓の外に広がる美しい山並みを眺めながら…何のお話？

パワースポットとしても知られ霊験あらたかな三峯神社を参拝

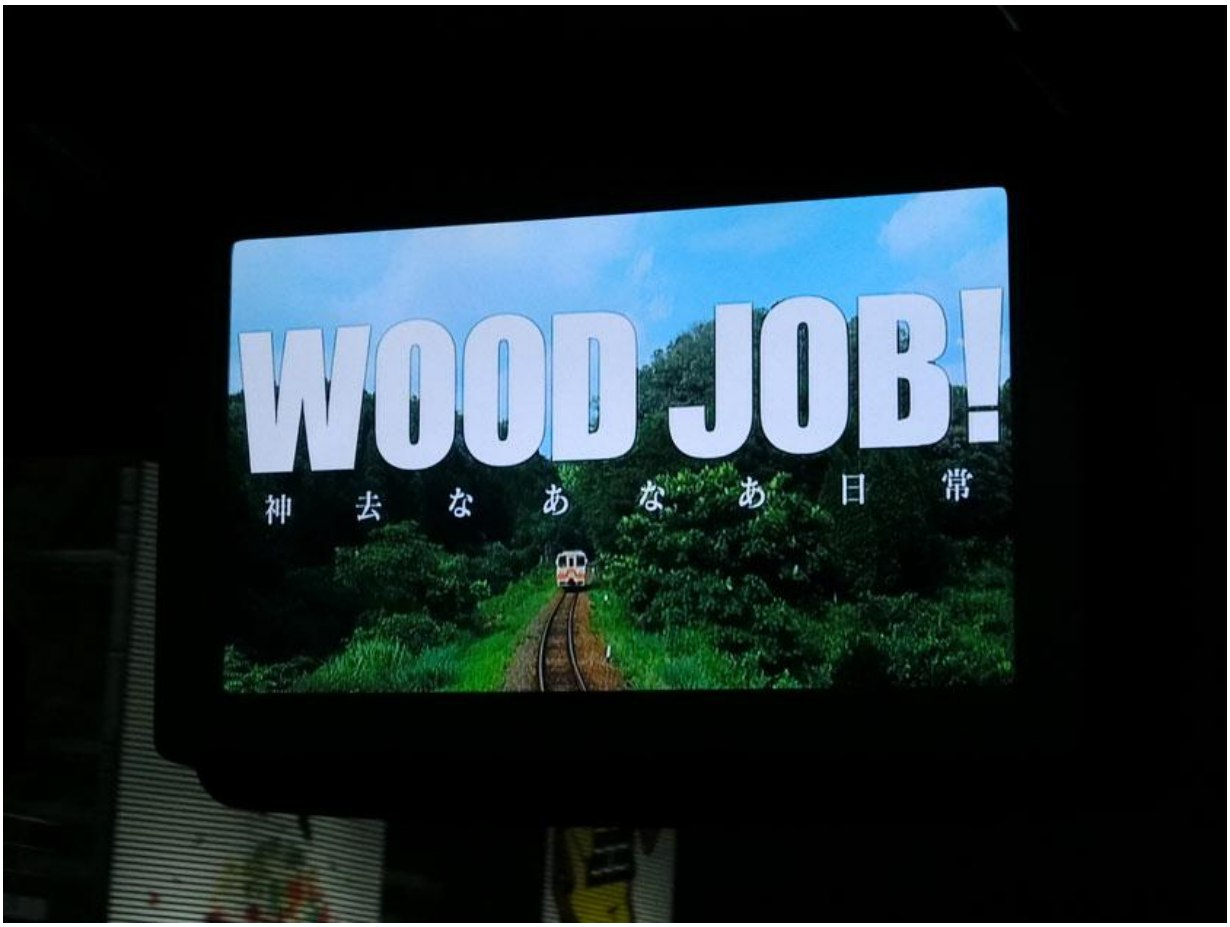
加工の際に大量に出る木屑も燃料として大切に再利用しているそう

この巨大な乾燥窯で含水率を 15%まで落としていきます

JAS 規格では木材の含水率は 20%で OK のところ…驚きの 12%！



どんなに機械化・自動化が進んでも職人さんの目には敵いません



帰りの車内では林業を題材にした名作「WOOD JOB！」を鑑賞

＜あとがき＞

自社で工場を持ち、植林・育林から伐採、製材、木材加工(プレカット)までトータルに手掛けているウッディーコイケさん。
現在こういった会社は少なくなり、全国に 10 社ほどしかないそうです。
「生えている木の全てが住宅になれる訳じゃない、工場の木材が全て使える訳じゃない。
そんな中でたくさんの社員がこれからも良い材料を収めていきたいと考えながら働いています。」
長きにわたり高品質のモノづくりを実現している一方で、森林を適正に維持管理することにより環境保全や防災面にも貢献している同社。
小池副社長にグッドリビングについて聞いてみたところ、まだあまり注目されていなかった頃から国産材をいち早く取り入れていたのが印象的だったとのこと。
グッドリビングの建てる家は温かくて優しい建物で、それは“人にも環境にも優しいということ”そんな風に仰っていました。
そして「無垢の木、天然の木にここまでこだわっているのはすごい！」とも。
今回は 20 年以上のお付き合いという設計士の佐野一広先生も参加されていて、先生もグッドリビングのことを“地球温暖化といった環境問題への意識が高く、身近な地域の材料を使っている貴重な会社”と表現していました。

今回で 6 回目となる工場見学ツアー、そもそもどうして始めたかというと…
「自信を持ってお客様に提供できる家を建てたい、実際に生産者に会って心を込めて作ったものを届けたい、そんな想いを伝えるために消費者であるお客様を山に連れていくことが一番だと感じた。」そう語る川村代表。
帰路に就く車内では「現場の皆さんが頑張って材料を届けてくれているのが伝わると嬉しい。自宅に帰ったらそんな想いで家の中を眺めてほしいですね。」と話していました。

伐採体験に始まり、パワースポットとしても名高い三峯神社での昼食と参拝、そして貯木場や工場見学と盛りだくさんだった今回のツアー。
参加されている皆さんが楽しみつつもすごく真剣で、行く先々で熱心に撮影をしたりスタッフに色々な質問をしたりしている姿が多く見られました。
木を育て製品にする人、それを活かす人…各々の想いはきっと既に住んでいる方にも、これから建てる方にもしっかりと伝わっていることでしょう。
貴重な時間を割いて案内をしてくださったウッディーコイケの皆さん、本当にありがとうございました！
春には千葉県君津市の山での伐採＆植林ツアーの計画が進行中とのこと、楽しみですね。